

8月 なかよし通信

「ジェンダーフリー」という言葉聞いたことがありますか。

こんなことがありました。(こゝろで泣いているA君に対して)

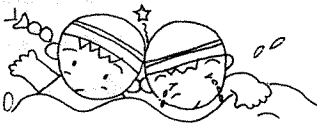
B君 「男のくせになんで泣くんのだ」

C君 「男の泣かばいんだぞ」

B君 「泣き虫だばあー!」

保育者 「男の人だって、いたい時や悲しい時は泣くんのだね」

B君 「え〜!! 泣いちゃういけないだよ、お母さん言ったもん」



このように毎日の生活の中で、性別だけで役割が決まっていり、必要以上に「女」「男」にこだわったりしていることは、ありませんか。「女だから」「男だから」ということにこだわってしまうと、自分のせがみの良さを伸ばすことができず、自分自身で他人の生き方で制約してしまうことになり、女にも男にも、生物学的な違いはありますが、そのために「女は家庭・育児・やさい」「男は仕事・強い責任感がある」と、当然自然なことと見られてしまいがちですが、これは「女・男・男・男」という社会通念を基礎として、社会的に強制的につくられたものです。この枠をくわく女性と男性の性差を「ジェンダー」と言います。

女のくせに...
女なんだから...

女のくせにやさしくない、女のくせに強い、ごわい、女のくせになんて言葉使いた、

女の子なんだから、もっとお行儀よくしなさい、

女の子なんだから、家のお手伝いをしなさい、

男のくせに...
男なんだから...

男のくせにたよりない、男のくせに弱虫だ、うしろじしている、

男のくせにそんなことも我慢できないのか、男の子なんだから、もっとしっかりしなさい、男の子なんだから、いい大学へ行けるように勉強しなさい、

こんなこと言われたら、どんな気持ちになるでしょう。

こうした意識を改め、男女平等社会を築くためには、幼少期からの意識形成が重要です。日頃の子育ての中で「男の子だから」「女の子だから」という男女の枠をくわくをしないよう、次代を担う子どもたちが、性別にとらわれず、個人の能力を最大限に発揮できるように、育児や環境、教育を考えていきましょう。

まずは、毎日の生活の中での言葉をみかへみかへ、「ジェンダーフリー」社会をめざして!!

9月 なかよし通信

8月のお便りでは、「ジェンダー」について、お知らせしました。女性も男性も、自分らしく生きるために、未来ある子どもたちを「ジェンダーフリー」社会で育てるために、今回は、家族関係を見直してみよう。

— 生活的自立をめざして —

「五分」「五分」のほずの女と男の関係も、こまかみていくと思わぬアンバランスがあるものです。



髪があるから気にしなさい、と口をきいて、見直してみよう。

1. 家事(炊事・洗濯・掃除など)

・家事はどうしても女性の担当になりがちですが、「男の魅力は、家事の実力から」ともいわれる時代になりました。皆が楽しく過ごせるように、仕事を分担し、協力しましょう。
*「まだ小さいから」ではなく、子どもたちのできることは、できるだけの責任を持たせ、自分でやるようにする事も大切ですね。

2. 育児

・育児も母親(女性)中心になりがちですが、お互いに協力しあって行いましょう。また、「女の子だから」「男の子だから」とこだわるとは、一人の人間として、尊重し、育てて行いましょう。

3. 介護

・病気や老いはだれにもやります。老いは突然始まるので、今日が親です。(お互いを支え合うために、生活の自立が大切になりますね。)

4. 仕事と家庭のバランス

・職業を持つ女性の多くが、家庭の仕事と職場のバランスで悩み、精神的にも肉体的にも7/7/7になっているので、家庭も仕事も両立させて行くには、どうしたらいいのか、考えてみましょう。

皆が楽しく過ごせるように、仕事を分担して、協力しましょう!





なかよし通信



10月

8月・9月と、ジェンダーについて、取り上げてみました。
今月は、男女共同参画社会についてお知らせしたいと思います。

男女共同参画社会ってどんな社会なの？

「女」「男」にこだわらず一人の人間として、尊敬しあい、
支えあいつがら夢に向って、いろいろな場面（政治・経済・
社会・文化など）で活躍する事ができ、幸せに生きていくこ
ができる社会のことを言います。

男女共同参画社会をつくるための5本の柱

- 男女の人権の尊重**
男女の個人としての尊厳を損なひまじょう。男女の差別をなくし、「男」「女」である以前にひとりの人間として能力を発揮できる機会を確保していきましょう。
- 社会における制度又は慣行についての配慮**
固定的な役割分担意識にとらわれず、男女が様々な活動ができるよう、社会の制度や慣行のあり方を考えていきましょう。
- 政策等の立案及び決定への共同参画**
男女が、社会の対等なパートナーとして、いろいろな方針の決定に参画（注）できるようにしましょう。
（注）参画を定める時に「参画」するだけでは不十分。決定するまでの過程や参画の場から行うこと「参画」です。
- 家庭生活における活動と他の活動の両立**
男女は共に家族の構成員。お互いに協力し、社会の支援も受け、家族としての役割を果たしながら、仕事をしたり、学習したり、地域活動をしたりできるようにしていきましょう。
- 国際的協調**
男女共同参画社会づくりのために、国際社会と共に歩むことも大切です。他の国々や国際機関とも相互に協力して取り組んでいきましょう。

3ヶ月にわたり、男女の差別について考えていただくの、取り上げてきました。みづいんのまわりではどうでしょうか。まずは自分の身近なところから見直し、どうしたら良いのか考えてみましょう。

得意なこと、にがてなことはだれにでもありますね。「女のくせにおかしい」「男のくせにおかしい」などと言われたら、どんな気持ちになりますか？
こんなことを言われたことはありますか？

得意なことやいいところを、はじめあえるといいですね。
みんなが頑張って、みんないいんだから。
協力しあっていきましょね

みんなが楽しくできるように、仕事を分たんと、協力しあいましょ！
できることはいろいろありますね。

家庭の中の仕事はいかちありますね。食事の用意、せんたく、そうじ、おたづけ、買物……。お任せきりにしていませんか？
家事をやるのはだあれ？

みんなでもっと楽しくできましょね！

切り取り線
ご意見、ご感想をお書下さい。

<ジェンダーについてのアンケート> どちらか1つ〇印をして下さい
記入者 女・男

- あなたは、男は男らしく、女は女らしくしてほしいと思いますか。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 女性は、人の世話をしたり、面倒を見ることにむいている。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 出産や子育ては、女性の本能に起因している。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 子育ては、主に女性が行った方がよい。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 男性は、家族を養い、守る責任を持っている。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 子供のことは、できるだけ自分の手でやりたいので、多少の無理をしても頑張っている。
・頑張っている ・頑張っていない ・わからない
- 自分の生活が、や、働くことへのこだわりから家族に余分な負担がかかると感じる。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 子供が大きくなるまでは、自分の仕事は、ひかえたい方がいいのかもなかなと思ふことがある。
・ある ・ない ・わからない

- 現在の日本の社会は、男性を主体とした作りかたで、政治、経済、社会、文化などの各領域において女性に対して、男性が権力を持つ社会である。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- あなたは、あなた自身のプライベートな生活の領域で、女性も男性の力が主導権を握ったり、自由に行動していると思ふますか。
・そう思う ・少し思わない ・わからない
- 個人の生活や社会からジェンダーをなくすこと、すなわち「性別役割分担」や「固定化した男女のイメージ」、「機会と資源配分の性別による不均等」をなくし、新たな男女の関係のあり方を創出し、共に生活する社会を目指していることを「ジェンダーフリー」と言います。あなたは、社会をジェンダーフリー社会にしたいと思ふますか。
・賛成である ・賛成ではない ・反対である ・わからない
- 上記の質問で、お答えでいいと思ふと反対であると思ふ方のみ記入して下さい。
あなたは、賛成である理由は何ですか？下記に、記入する欄に2つ以内で記入して下さい。
A. 男性の方が社会で活躍していくための能力があると思ふから
B. 能力のある女性が活躍するのはいいが、社会全体を変える必要はないと思ふから
C. 現状の方が女性が保護されたり、甘えたりするので楽だから
D. 責任を持ったり、采配を振るったりするのは大変だから、その方がよいかと思ふから
E. 女性も社会参画で活躍していくのを望むので、いいと思ふから
F. 人権尊重に対する世界的な流れや、経済の状況など様々な要因で社会は変化を個人で変えたいと思ふから
G. その他（意見を書き下す）

以上です。ご協力ありがとうございました。



なかよし通信



年末になり、何かと忙しい毎日をお過ごしのことと想います。遅くなりましたが、11月にゴチかいたいただきましたアンケートがまとまりましたので報告させていただきます。(全問でほぼく報料してのせさせていただきます)

(ア) 回収状況

母親 —— 対象者数 70名 有効回収票数 35票 有効回収率 50%
 父親 —— 対象者数 42名 有効回収票数 23票 有効回収率 54%

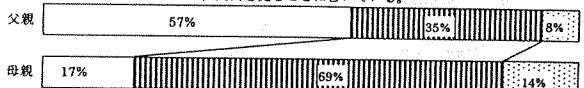
(イ) 調査結果

問1・あなたは、男は男らしく、女は女らしくなってほしいと思いますか。

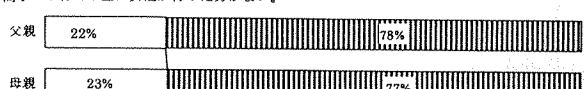
そう思う そう思わない わからない その他



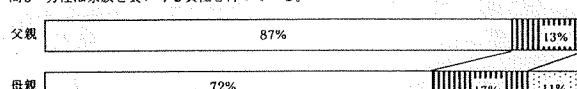
問2・女性は人の世話をしたり、面倒を見ることにむいてる。



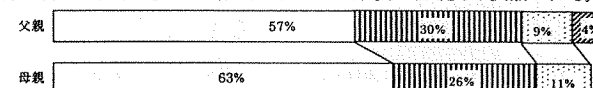
問4・子育ては主に女性が行った方がよい。



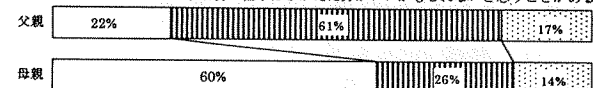
問5・男性は家族を養い守る責任を持っている。



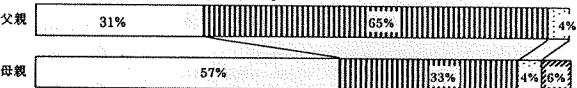
問6・子供のことは、できるだけ自分の手でやりたいので、多少の無理をしても頑張っている。



問8・子供が大きくなるまでは、自分の仕事はひかえた方がいいかもしれないと思うことがある。

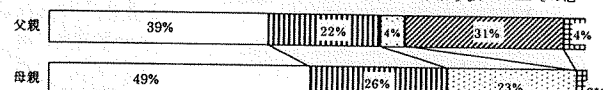


問10・あなたは、あなた自身のプライベートな生活の領域で、女性より男性の方が主導権を持っていたり、自由に行動していると思いますか。



問11・個人の生活や社会からジェンダーをなくすこと、すなわち「性別役割分担」や「固定化した男女のイメージ」・「機会と資源配分の性別による不均等」をなくし新たな男女の関係のあり方を創造し、共に生きやすい社会を目指していくことを「ジェンダーフリー」と言います。あなたは、社会をジェンダーフリーにすることに賛成ですか。

賛成である あまり賛成でない 反対である わからない その他



<その他の意見>

・ 現在、日本だけでなく世界的に見ても、男性優位の社会構造に陥っていると思う。確かに今の状況を改善して行くべきだと思うが、男性・女性にこだわるのではなく、個人としてその人の長所・短所というものを理解し、できることばかりを出来る所は補うという、相互理解が大切なのではないかと思う。若い人は良くて老人はだめ、健康者は良くて障害者はだめ、という社会通念はじむ、もっと改善すべきではないだろうか。男性であって女性的な人もいるし、その反対の人もある。何でもすべて男性5分・女性5分というのは難しいのではないだろうか。

・ 良識の中での、男らしさ女らしさは必要であると思います。

・ この世の中には、男と女という2つの性しかなくて、1つは産む性なのだから役割がある程度来ってきておれなければならないと思うけれど、自分の性を一生懸命生きていけば、パートナーも少しずつ変わっていき、社会も変わってくるでしょう。でも、女を使ってる逆差別はしてはいけないと思う。私にはまだ良・パートナーや子どもたちに思ってもらえるのびのびと仕事しているけれど、隠れて喜ばせて、母に対しては合格点に達して、ないと思います。いつも感謝の気持ちをお忘れなければ、そしてあえてそれを口に出していれば、この世の中はもう少しいいのではないだろうか。

その他にも意見いただきましたが、省略させていただきます。仕事と家庭の両立面では、女性も男性も頑張っているのですが、性別役割分担の面では「家業や育児は女性」、「家族を守るのは男性」というようなジェンダーが、私たちの意識に浸透しているという面もみられます。

「男女共同参画」という時代、あちこちでこのような言葉が聞くことも多くなりました。日々の生活の中で、今回のアンケート結果も参考に、私たちに何か持っていてお返ししてみたい。



(カット、松戸市女性センター資料より)

1月 なかよし通信 2

先日のアンケートより、働く母親の皆さんの中には、多くの迷いや不安があるのを感じました。どうして、働く母親をあげ、働いていることを自らとなく「子供に夢を託す」として、感じてしまうのでしょうか。罪悪感すら感じてしまうのは何故でしょうか。その結果、働いている上に、家事のほとんどを引受けてしまい、そのうえしっかりと子育てをも張り切り「頑張る」しかなくなる。お利殖張りとピンチで緊張が切れてしまい、体を壊すか、あるいは気持ちに不安定になって、寝かなくなる場合もあるし、全てが、やに付いて、多くの放棄の状態に陥ることもあります。この気持ち、女性の生き方を縛るジェンダーのあらわれではないでしょうか。

働いていながら専業主婦のほうが、女性は育児や家事を担うのが当たり前というジェンダーは、私たちの意識の隅々まで浸透しているのです。子育ては母親の役割だと思ってるから、夫に対しては「協力以上のことは望まない」夫は働くことを理解してくる存在であり、夫の仕事にしろ寄せて来るのは要求は何か付かなくていい、よければいいと控えてしまうのです。

しかし、これは少し変えてねよと考えてみまわす。仕事をすることは基本的な「権利」であり、だから許可を得るものではないです。子供は女性だけの責任で育てるべき存在でもありません。夫婦あるいは社会のみんなが育てる責任を有しているのです。もちろん私たち保育者もその責任の仲間の一です。自分の気持ちの満足と子供にとっての「利良い育ち」の場とは、いっしょに考えてあげてほしい。何もかも背負い込んで必死に頑張ることがお互いに良いとは限りませんね。

働く女性の迷路

1 しわ寄せ
仕事をすることを認めてくれないで、お利殖がたのびで、子育て家事は手抜きしてあげない。
・保育現場のことも引いている男性もお利殖の毒も思っている

2 スーパーウーマン
(子供の世話も一に引受けるお母さん)
子供のことはできるだけ自分の手でやりたいので、多少無理しても頑張っている。
・夫も忙いので子供の世話はお利殖のせい

4 二者択一
・やはり子供が大きくなるとは、自分の仕事は控えた方がいいのかお利殖のせいと思ってしまう

お利殖で子育て
子供を育てることは大切なことは母親・父親だけでなく、たくさんの大人たちが見守って育てるという事です。一点でギリギリ交えるよりは、二点・三点とゆとり交えることによってたくさんの愛情を受けながら子供たちが育つ利良い環境を作るのが私たち大人の役割ではないでしょうか。

よく子供はみんなに長い時間あわせて平気ね。私ならかわいそうでママいっわ。
(要刺言葉)

3 罪悪感
子供たちに忙い思、七手八脚して母親してすまじい思っている。
・夫も忙い時は、自らとなく「悪いね」と思ってしまう

子育てはお金に換えられないもの。
母親失格!
(要刺言葉)
寝たきりのお母さん、働く必要があるのに、食事を取れないお利殖、いっわ、お利殖見ている

＜松戸市女性センター資料用＞

